窓

Higashi Sapporo Hospital's Newsletter MADO

January 2023 No.112

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2023年1月発行
発行責任者／病院長　石谷邦彦
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311（代表）
FAX.011-823-9552
E-mail：info@hsh.or.jp
HP：https://www.hsh.or.jp

2023年の思想のキーワード

尊 厳

－第1章「尊厳」概念は近未来のエピステーメとなり得るか?－

The International Research Society of the SCPSC 理事長
医療法人東札幌病院 理事長・院長
石谷邦彦

本年2023年4月に開催される「がん緩和ケアに関する国際会議；Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer（SCPSC）」の3日目の最後に“安楽死”に関するシンポジウムが企画されている。その座長に“尊厳療法”で著名なカナダのDr. Chochinovが、そして演者の一人に、やはりカナダの精神医学界の重鎮Dr. Gaindが“Missing Goldilocks and Killing Kant: The price of Canada's headlong assisted death expansion（ゴルディロックスを失い、カントを殺す：カナダの拙速な幇助死展開の代償）”のタイトルで講演する。カナダは2016年、積極的安楽死を合法化し、2021年には精神疾患の場合も対象に容認している。さらに他一人のカナダの医師の講演が企画されているが、彼らの「人間の尊厳」に関する苦衷が偲ばれる。

今まさに、「尊厳」の概念に21世紀のフーコーの言うエピステーメ（一時代の文化全体の基底にある認識の系あるいは根底的な「知」）になり得るかの議論が生起している。

「尊厳」の観念はプラトンの“ソクラテスの弁明”における“徳の形成”を持って嚆矢とするが、歴史的に“選ばれし者に対する観念、例えばノブレス・オブリージュ（noblesse oblige）のような”を経てカントに至り、初めて人間に付与された道徳的概念における「絶対的価値としての尊厳」が哲学的に基礎づけられた。カントは「人間の尊厳」を“民衆に由来する正義”と表し、人格の成立に関与する、誰しもが等しく尊重される平等主義的で普遍主義的な概念として確立した。また、カントによれば法と道徳の関係では、「人間の尊厳」概念は基本的人権の内実を供給する道徳的源泉としての機能を有しているという。

現代哲学では欧米圏を中心に、「尊厳」のカント的解釈を巡ってショーペンハウアー、ニーチェ、ハーバーマス、ホッブス、ダーウォルなどが登場し、長い間論争が続

いている。しかし欧米圏以外では「尊厳」の概念史研究はほぼ皆無に等しい。そして一方では、世界の歴史の変転により、20〜21世紀には「尊厳」観念は法的概念として普遍化されていく。それは1945年国連憲章、1947年日本国憲章、1948年世界人権宣言、1949年ドイツ連邦共和国基本法、1999年スイス憲法、国連Global Compact、2004年EU憲法、2015年SDGs（MDGs）などに謳われ、法的根拠としての現実となった。さらに現在はCovid-19 pandemic、ロシア・ウクライナ戦争において、世界は「人間の尊厳」が激しく毀損されている事に涙している。これら、グローバル化しこれまでの中心的な統合理念、例えばロールズの“公正としての正義”などが瓦解した今、「尊厳」概念にその歴史が示すように世界の統合理念としての重要性が秘められている事に論を待たない。

翻って緩和ケア、ひいては他の医療の上でも「尊厳」概念が基本的な価値観として議論されているが、その際にはその構造の脱構築が必要と思われる。例えば「生命の尊厳」という言葉は日本の発祥であるが、日本を含む東アジアでは比較的自然に受け入れられる傾向にあり、「人間の尊厳」、「人間性の尊厳」などとの文化人類学的差異も議論されなければならない。またスイス憲法には「被造物の尊厳」が導入され、人間のみならず動物や植物にまで拡大している。

私達のこれまで志向してきた“やさしさの医療”の文脈から、「尊厳」は自己と他者を乖離させ得ない自己自身に内在する道徳的規範、すなわち“基本的人権”を担保する意志の「自律」に他ならない。「自律」は“自己実現”の前提であり、well-beingの道標でもある。カントの「自律」も“自己自身に対する義務は、直ちに他者に対する義務を要請する”としている。

「自律」を“自己決定権”と短絡すれば、フーコーの言う「生権力」が現実となる。Covid-19 pandemicに見られたトリアージ、別稿で記したUICC/World cancer congressでオーストラリアの医師が法に従い安楽死を実施という報告、さらにはロシアのウクライナへの侵攻意図にも演繹される。（人間の尊厳は不可侵である。これを尊重し、かつ、保護する事は、すべての国家権力の義務である。── ドイツ連邦共和国基本法1949年）

現在の世界の混沌を鑑みれば、近未来に如何なるエピステーメが用意されるかを誰しもが自問している。そして「尊厳」概念がその最も重要な候補の一つである事を予感している。その場合、「尊厳」概念は、この半世紀health care領域でのエピステーメでもあった「Quality of Life」概念を超える事になるであろう。

参考文献

『道徳形而上学原論』エマニュエル・カント著 篠田英雄訳 岩波文庫、1976

『純粋理性批判』エマニュエル・カント著 熊野純彦訳 作品社、2012

『実践理性批判』エマニュエル・カント著 熊野純彦訳 作品社、2013

『自由の哲学；カントの実践理性批判』
オトフリート・ヘッフェ著 品川哲彦他訳 法政大学出版局、2020

『思想』no.1114,2017,2;「尊厳」概念のアクチュアリティ

『思想』no.1135,2018,11;カントという衝撃

『思想』no.1140,2019,4;公共II

World Cancer Congress 2022に参加して

The International Research Society of the SCPSC 理事長
医療法人東札幌病院 理事長・院長
石谷邦彦

2022年10月18−20日の3日間、スイス、ジュネーブでUnion for International Cancer Control（UICC、国際対がん連合）主催、WHO共催の第26回World Cancer Congress（WCC、世界がん会議）が開催された。UICCは1933年に設立されている。当初からがんの病理学、診断・治療学、公衆衛生学など総合的な対がん活動の歴史を辿り、WCCも第二次世界大戦前後の8年間を除いてほぼ2年毎に開催されてきた。現在も使用されているがんの進達度TNM分類はUICCの発案である。1966年第9回WCCは吉田肉腫で知られる東京大学病理学教授であった吉田富三先生を会長にホテルニューオータニで世界各国から4,000人の参加のもと開催された。開会式は日本武道館で行われ、皇太子殿下同妃殿下（現在の上皇・上皇后殿下）の御臨席を仰ぎ皇太子殿下が祝辞を述べられている。UICCの発展には日本のがん研究の先達が大きく貢献してきた歴史がある。現在、その輝かしい歴史はUICC日本委員会に引き継がれている。

今回はUICC本部のあるジュネーブで初めて開催され、かつ新たな方向性へのプログラムが企画された。それは本広報誌「窓」No.108,1.2022で述べた、2015年の国連サミットで採択された“持続可能な開発のための2030年までの行動指針. The 2030 Agenda for Sustainable Development（SDGs）”に則ったUniversal Health Coverage（UHC）を基調とするものであった。すなわち、すべての保健医療サービスは、prevention（予防）、treatment（治療）、rehabilitation（リハビリ）、palliative care（緩和ケア）で構成されるという枠組みのプログラムである。その内容に魅せられて、Covid-19 pandemicの影響もまだ醒めやらぬ中、世界から120の高、中、低所得国からの2,000名に及ぶ参加の会議であった。

緩和ケア関係では、旧知のProf. David Currowが企画委員に、Prof. Stein Kaasaが“がん治療と緩和ケアの統合”の講演に、Prof. Stiefel Friedrichがスイス代表の顧問として参画されていた。UICCの名の通り医療関係者の他に政治家、行政官、法律家など様々の立場の人々が参加しており、また先進国と発展途上国の保健医療の優先順位の違いもあり、緩和ケアの話題はやや難しい印象であった。Prof. Kaasaはそれを理解しながらもEUの緩和ケア教育システムを紹介し、多くの質問を受けていた。安楽死のシンポジウムでは、Worldwide Hospice Palliative Care Alliance（WHPCA）のDr. Stephen R. Connorがchairを務め、AustraliaのDr. Cameron Mclarrenがその実践を話し、UKのDr. Ilora Finlayがそれを批判するというごく一般的な議論に終始し、Dr. Connorがautonomy（自律）が基本と差し障りなく纏めていた。しかし“autonomyとは何か?”という本質に迫るには至らなかった。その他の緩和ケアに関する話題も多くは表層的な議論であったが、参加者の熱意は今後の発展を多いに期待できると感ぜられた。

一方、がんのprevention（予防）の研究がtabacco controlのみならず関連するライフスタイル全般の管理に及んでいる事に衝撃を受けた。例えばジャンクフード（Junk Food）の研究により、すでに先進国では幼少時、学童期への啓蒙教育が行われている事などの多くの発表もあり熱い議論を目の当たりにした。（Health effects of dietary risks in 195 countries, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet May 11, 2019 Vol.393, No.10184, p1911-2008）

余談であるがジャンクフードに清涼飲料水の一部、シリアルも入っている事に驚いた。Cancer controlの未来を見た3日間であった。

The 3rd & 4th Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer 2023

第3回・第4回合同開催
がん緩和ケアに関する

1日目

シンポジウム1
4.27 Thu.
08:00-12:00

オピオイドとがんの痛み：進化するその科学と実践

座　長：**Russell Portenoy**（MJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA）
副座長：山蔭道明（札幌医科大学）
副座長：下山直人（君津中央病院）

基調講演　“臨床における調和”最善の臨床を通して、利益を最大に損益を最小に
Russell Portenoy（HJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA）

序論
Russell Portenoy（HJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA）

オピオイド受容体：構造と機能、そしてその可塑性
Christoph Stein（Charité-Universitätsmedizin Berlin, Germany）

遺伝子多様性（変化性）とオピオイドの損益との調和について
Pål Klepstad（Norwegian University of Science and Technology, Norway）

科学的なオピオイド臨床応用の3事例：
オピオイド・ローテーション、突出痛への対応、メサドンの役割
Eduardo Bruera（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）

ランチョンセミナー1
4.27 Thu.
12:00-13:00

オンコロジーと緩和ケアの統合：その歴史と未来への方向性
Stein Kaasa
（European Palliative Care Research Center（PRC）, Oslo University Hospital and University of Oslo, Norway）
座長：照井 健（東札幌病院）

プレナリーセッション1
4.27 Thu.
13:00-17:00

臨床腫瘍学と緩和ケアの統合 – 最近の動向

オンコロジーと緩和ケアの統合：適切な患者のために、適正な時期に適正な介入を提供する
David Hui（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）
座長：佐治重衡（福島県立医科大学）

血液悪性腫瘍の根治的治療と緩和ケアの統合について
Thomas William LeBlanc（Duke University School of Medicine, USA）
座長：小船雅義（札幌医科大学）

免疫療法治療薬に伴う免疫関連有害事象
Aung Naing（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）
座長：高橋孝郎（埼玉医科大学国際医療センター）

がんリハビリテーションと緩和ケア
Jack Fu（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）
座長：辻 晃仁（香川大学）

イブニングセミナー1
4.27 Thu.
17:00-18:00

緩和ケアの将来に不可欠な要素 – 緩和ケア看護学
Philip Larkin（Lausanne University Hospital, Switzerland）
座長：大串祐美子（東札幌病院）

ワークショップ
4.27 Thu.
13:00-17:00

<開催中止>
ご事情によりWilliam Breitbart先生の来日が困難となり、
ワークショップは開催を中止いたします。

国際会議

事前参加登録締切

2023年2月28日(火)

2日目

シンポジウム2
4.28 Fri.
08:00-12:00

なぜ緩和ケアに スピリチュアル・ケアを組み込むことが必要なのか

座　長：Christina Puchalski(George Washington University, USA)
副座長：渡邊知映(昭和大学)

基調講演
専門職連携のスピリチュアルケアにおける教育および臨床モデル：緩和ケアの不可欠な要素
Christina Puchalski(George Washington University, USA)

緩和ケアにおける不可欠要素としてスピリチュアルケアの統合を支援する
Vannessa Battista(Dana-Farber Cancer Institute, USA)

スピリチュアリティと緩和ケア：最新エビデンスと今後の優先課題とは?
Karen Steinhauser
(Duke University School of Medicine and the Durham Veterans Affairs Medical Center, USA)

スピリチュアル・ケア専門家から視た緩和ケア
Anne Vandenhoeck(Katholieke Universiteit Leuven, Belgium)

実存的ないしスピリチュアルな苦痛を持ちながら、
進行性や終末期の病いとともに生きる患者に対して、
スピリチュアルで思いやりのあるケアを取り入れる
Marvin Omar Delgado Guay(University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー2
4.28 Fri.
12:00-13:00

医療、そして生と死における緩和ケア：その実存的意義
Sheldon Solomon(Skidmore College, USA)
座長：三宅 智(総合病院土浦協同病院)

プレナリーセッション2
4.28 Fri.
13:00-17:00

緩和ケアの臨床における実存的苦痛の要因とその影響

緩和ケアにおける実存的問題に対するリエゾン精神医学の役割
Friedrich Stiefel(Lausanne University Hospital, Switzerland)
座長：中村健児(東札幌病院)

実存的脅威に直面する患者とのコミュニケーションについて
Peter Salmon(University of Liverpool, UK)
座長：大西秀樹(埼玉医科大学国際医療センター)

実存的に苦悩する患者はいかに臨床医に影響を与えるか
Sarah Dauchy(APHP. Centre University of Paris, French)
座長：清水 研(がん研究会有明病院)

「死と死に逝く過程」に関する医療と社会の論調とその緩和ケアへの影響について
Camilla Zimmermann(University of Toronto, Canada)
座長：中川俊一(Columbia University Medical Center, USA)

イブニングセミナー2
4.28 Fri.
17:00-18:00

グローバルな緩和ケアの発展に向けて：国際的な政策過程を介した
ケア・サービスと必須薬剤の利用促進についての提言
Joseph Clark(Wolfson Palliative Care Research Centre, University of Hull, UK)
座長：日下部俊朗(東札幌病院)

3日目

プレナリーセッション3
4.29 Sat.
07:05-12:00

情報と伝達の技術が導入される緩和ケア（Technology-enabled palliative care）の現状と将来

座　長：David Hui（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）

序論
David Hui（University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA）

COVID-19パンデミック後のヘルスケア領域における
第四次産業革命とメディカルデジタルトランスフォーメーション
池野文昭（Stanford University, USA）

ヘルスケアプラットフォームにおけるインテリジェンスの強化 ― マイクロソフトの見解
Keren Priyadarshini（Microsoft Asia, Singapore）

遠隔医療、人工知能、デジタル治療：
“ロボットの脅威”か、それとも“心のこもったケアの未来”か?
Mihir M. Kamdar（Massachusetts General Hospital, USA）

組織的に導入された電子PROMs評価(ePROMs)システム
COVIDパンデミック下のミラノ国立がん研究所における緩和ケア遠隔医療への有用性について
Augusto Caraceni
（Fondazione IRCCS National Cancer Institute, Chair of EAPC Research Network, Italy）

Technology-enabled palliative careの倫理的側面
Ralf J. Jox（Lausanne University Hospital, Switzerland）

Additional Remarks
Jacob Strand（Mayo Clinic, USA）

ランチョンセミナー3
4.29 Sat.
12:00-13:00

サポーティブ･オンコロジー：米国の大手がん研究所における新しい専門領域としての活動状況
Declan Walsh
（Levine Cancer Institute, Editor-in-chief of BMJ Supportive and Palliative Care, USA）
座長：西山正彦（東札幌病院）

シンポジウム3
4.29 Sat.
13:00-17:00

安楽死・医師による自殺幇助と緩和ケア、その本質的な議論に臨む

座　長：**Harvey Max Chochinov**（University of Manitoba, Canada）
副座長：Friedrich Stiefel（Lausanne University Hospital, Switzerland）

序論
Harvey Max Chochinov（University of Manitoba, Canada）

医師が患者の死を早める事の倫理的、法的、そして専門家の適応状況
Richard Huxtable（University of Bristol, UK）

ゴルディロックスを失い、そしてカントを殺す：
カナダの拙速なassisted death（幇助死）展開の代償
K. Sonu Gaind（University of Toronto, Canada）

医学的な死への幇助はいつが適切なのか?
Madeline Li（Princess Margaret Cancer Centre, Canada）

安楽死と自殺幇助、尊厳療法の可能性について
Harvey Max Chochinov（University of Manitoba, Canada）

完全
同時通訳

第3回・第4回合同開催 がん緩和ケアに関する国際会議

主 催	医療法人 東札幌病院
第3回大会長	照井　健（医療法人東札幌病院）
第4回大会長	三宅　智（総合病院土浦協同病院）
会 期	2023年4月27日（木）・28日（金）・29日（土）
会 場	札幌パークホテル 〒064-8589 札幌市中央区南10条西3丁目 TEL 011-511-3131　https://www.park1964.com/access/

事務局 医療法人 東札幌病院
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35　TEL.011-812-2311　FAX.011-823-9552
E-mail: office@sapporoconference.com　http://www.sapporoconference.com

石谷理事長の
スキー讃歌
その30

◀私と妻。正月の三角山頂にて

特別寄稿

大野先生とのゴルフ

芳賀孝郎

1982年6月、北大スキー部創立70周年記念祝賀会が札幌グランドホテルで開催された。その時、運よく岳父・三田幸夫が私の家に滞在中であった。大野先生からの招待で私も岳父と共に出席した。

大野先生はお元気で岳父を出迎えてくれた。大野先生は北大の古いスキー部仲間に、「立山・松尾峠で遭難した板倉勝宣と同行した三田幸夫」と紹介していた。私の耳に、「あの松尾峠の三田幸夫はあの小さな人か」とつぶやいている声が聞こえた。

岳父は北大の古き仲間との話し合いを楽しみ、スピーチでは「北大スキー部の活躍で、国際的に活躍している今日の日本スキー界があり、その発展に貢献した実績は高く評価される」と述べた。この事は山の雑誌「アルプ」298号に記載されている。

記念祝賀会が終わり、私は岳父と共に大通公園を散歩した。手稲山の頂が黄昏込めるのを見ると、岳父は立ち止まり、亡くなった板倉が愛唱していたシューベルトの「魔王」をドイツ語で静かに歌い始めた。その目は亡き板倉勝宣を思い出しているように見えた。

翌日、大野先生から電話があった。三田さんとゴルフを一緒にしたいとの連絡であった。明後日、札幌国際ゴルフカントリー・島松でプレーをすることになった。

95歳の大野先生は70歳でスキーを止め、ゴルフを始めた。島松ゴルフ場の創立者のお一人で名誉理事長であった。先生はインド仕込みゴルフをする岳父（82歳）を見て「三田さんは若いから飛ばすね」と言ってキャディーを笑わせていた。95歳の先生と82歳の岳父のゴルフプレーを見ながら私（48歳）も楽しんだ。

しばらくして横浜に帰った岳父から、一通の手紙が届いた。その内容は次の通りである。岳父がメンバーである相模カントリークラブへゴルフに行った時、ゴルフ評論家の摂津茂和氏にお会いした。札幌国際カントリークラブで、大野先生とゴルフをしたことを話すと、摂津氏は「週2回プレーする95歳の大野先生は日本最長老の現役ゴルフプレーヤーである。その先生のゴルフクラブを神戸市近郊の三田ゴルフクラブにある日本ゴルフ博物館に展示したい」と言った。

先生へは、岳父からすでに連絡済みであっ

た。私が札幌医大へ先生のゴルフクラブを受け取りに行くと、3番ウッド、5番アイアンとゴルフシューズを用意して待っていらした。先生は2枚のスコアカードを出して、「芳賀君がアサインように」と言われた。私がゴルフクラブとスコアカードを受け取り、失礼する時であった。

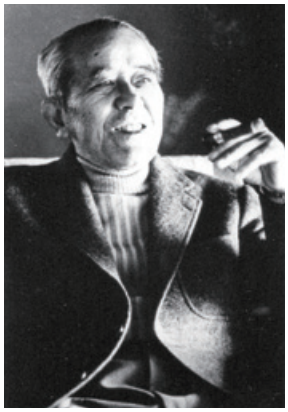
先生はこう言って喜ばれていた。「私は今まで医学界とスキー界では数々の表彰を受けた。しかし今回、三田さんのお陰で70歳から始めたゴルフについて、私のゴルフクラブが日本ゴルフ博物館に展示されることは誠に名誉なことです」

先生はその2年後、亡くなった。享年97歳であった。

●後日談

ある日、私の仲間が三田ゴルフクラブの日本ゴルフ博物館を訪れた。そこに大野先生のゴルフクラブが展示されていた。さらにそこには「1953年第一次マナスル登山隊の隊長であった三田幸夫がキャラバンで杖代わりに使用し、BCで素振りしたヒッコリーシャフトの5番アイアンも展示されていた」との報告があった。

▲大倉山にて、三笠宮ご夫妻と大野先生



◀書斎にて、私の岳父・三田幸夫

註. 大野精七先生（1885年～1982年）
東大医学部を卒業後、1921年～1924年の間、ドイツ・フライブルク大学に留学した。その間、勉学とシュバルツバルトのスキー場でスキー技術を習得した。帰国後、北大医学部に赴任し産婦人科を創立した。戦後、札幌医科大学の初代学長を務めた。名門北大スキー部の第5代スキー部部長となり25年間部長をされ、北大スキー部の活躍に貢献した。さらにスキーの普及と発展に尽くし、戦前の冬季オリンピックの札幌誘致にご尽力された。山スキーにも力を注ぎ、本格的山小屋を建設し、秩父宮様を山スキーにご案内された。1972年、札幌オリンピックの成功と今日の日本のスキー発展の功績を讃えて、大倉山ジャンプ競技場の麓に大野先生の顕彰碑が建立された。

外来医師スケジュール

（2023年1月1日～）

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	1診（内科初診／再診）	鳥本	日下部	鳥本	鳥本	鳥本／小野（賢）	交代制
		2診	石谷（一般内科）	石谷（一般内科）	石谷（一般内科）	三原（一般／腫瘍内科）	三原（一般／腫瘍内科）	出張医（内科初診／再診）
		3診（消化器内科）	日下部	伊藤	渡邉	長岡	日下部	
		4診（循環器内科）	髙木	古谷	髙木	秋津	秋津	
		5診	久村（心療内科）	出張医（整形外科）	出張医（呼吸器内科）	小野（賢）（一般／血液内科）	伊達（呼吸器内科）	
		6診（一般外科）	長谷川	信岡		信岡	長谷川	交代制
		7診		大村（乳腺・甲状腺外科）	里見（一般外科／乳腺・甲状腺外科）	大村（乳腺・甲状腺外科）	照井（一般／糖尿病内科）	
		8診（発熱者・必要時に対応）	照井	中村	三谷	照井	町野	
		9診			佐藤（病をよく識る外来）		鳥本（セカンドオピニオン外来）	
		放射線治療	堀	堀	堀	堀	堀	
		内視鏡	伊藤	長岡	佐賀	渡邉	安保	交代制
		腹部エコー			三谷			
		歯科・歯科口腔外科	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	交代制

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午後	14:00～17:00	1診（内科初診／再診）	三谷（13:30～）	出張医（13:30～）	出張医（13:30～）	出張医（13:30～）	三谷（13:30～）	休　診
		2診	中村（一般／緩和ケア内科）	小野（賢）（一般／血液内科）	町野（一般／緩和ケア内科）	町野（一般／緩和ケア内科）	中村（一般／緩和ケア内科）	
		3診	長岡（消化器内科）	渡邉（消化器内科）	小野（薫）（一般／血液内科）	伊藤（消化器内科）	佐賀（一般／消化器内科）	
		4診	秋津（循環器内科）		照井（一般／糖尿病内科）	髙木（循環器内科）	出張医（脳神経内科）	
		5診		照井（一般／糖尿病内科）	井須（整形外科）			
		6診（一般外科）	長谷川★	久慈	信岡★	長谷川／信岡／久慈★	久慈	
		7診		大村（乳腺・甲状腺外科）	大村（乳腺・甲状腺外科）			
		8診（発熱者・必要時に対応）	三谷	出張医	出張医	出張医	三谷	
		9診						
		放射線治療	堀／出張医	堀	堀	堀／出張医	堀／出張医	
		内視鏡	佐賀	佐賀／長岡／伊藤	長岡	出張医	伊藤	
		歯科・歯科口腔外科	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	

★6診午後の外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。
※外来受付時間　月曜日～金曜日8:30～17:00　土曜日8:30～12:00
※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。
※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。
※禁煙外来（要予約）　木曜日・金曜日11:30～12:00　担当医師:秋津
※病をよく識る外来（要予約）　水曜日9:00～12:00　担当医師:佐藤
※セカンドオピニオン外来（要予約）　金曜日9:00～12:00　担当医師:鳥本
※石谷外来　火曜日9:00～11:00
※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。
※放射線治療外来は、地下1階診察室です。

●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です（以後30分50円）。

医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2　3rdG: Ver.2.0）の認定を受けています。

■認定期間
2020年9月26日～2025年9月25日

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2　3rdG:Ver.2.0

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311（代表）
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: https://www.hsh.or.jp

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合って下さい。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。